

短歌 (はなさい短歌会)

目薬をさしつづつ楽しい出の名画を今夜夢に見るかも  
種なしの葡萄つまんで単純にあれもこれもと果てない欲望  
澄み切った空に舞い上がり汝はいま雲の絨毯駆け上りゆけ  
萩の花丈をのぼして枝垂れ咲く風吹けば揺れ小蝶遊ばす  
秋雨の晒す試練はコスモスの褪せることなく美は凛として  
年毎に腕前上がり目を見張る芸術祭の大典作品  
長年の研究実ってノーベル賞紙面賑わす穏やかな顔  
兩年で不連続きにT P P 岐路に立つ農秋の風しむ  
ジグソーのパズルならねど短歌詠む言葉の山に暗中模索  
漱石を語る講師も受講者も「こころ」が誘う心が集う

南 史郎  
内村くみ子  
牧 愛子  
江蔵 成子  
満園 正夫  
渡辺クミ子  
東郷ミイ子  
内山 幸夫  
篠田 紀子  
松原ひろえ

川柳 (志布志川柳会)

元氣そう云われて背筋伸ばして  
さりげない首脳の握手笑顔なく  
先祖より伝わる味を嫁覚え  
味などは文句云わない戦中派  
T P P 天をにらんでいる力カシ  
あぜ道で挨拶したらペアかかし  
あぜ散歩 又も力カシとまちがわれ

江藤 房子  
末永 一雄  
高田 秀雄  
赤池 忠重  
高田 昭秋  
上東マキエ  
内山 幸夫

短歌 (南船志布志短歌会)

去年今年ひび割れ茶碗になってゆくそのままでよし老いも遊行よ  
入院し吾を待ちしか愛犬のまだ温かき体を抱きしめる  
過ぎし日の南船歌人揃ひたる賑にぎし頃ひたに恋ほしき  
ミニバイクの免許も今はなき老いの車走らす夢の不思議さ  
それぞれに頭に違う悩みあり大病院で薬待つ人  
捨てがたき夫の日記を燃やすとき白きけふりは双の目に沁む  
ピーポの音震わせてとおり過ぐ夜半の救急車に耳はそば立ち  
縁側に仕舞ひわすれの風鈴は立冬ですよと哀しく聞こゆ  
孫夫婦突然訪れカサゴ魚ピチピチ跳ねるサシミとするか  
さらさらとしぐれる如くくずの花葉裏返して風渡りゆく

暉峻 康瑞  
池ノ上一枝  
林 静子  
平川 澄子  
益倉 睦美  
松下 芙美  
宮原 順子  
山田 和子  
山元ハツミ  
若松田鶴子

文芸

Japanese Poem of 31 syllables  
\*Haiku Poem\*Comic Haiku\*

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：色づく銀杏と冬の空】